

令和6年度
小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定支援業務

複合施設機能の概要

2024年9月17日(火)



2-(2). 図書館機能「知の集積」

未来型図書館のビジョン・コンセプトとのつながり

“ビジョン”こまつを編む。こまつを巡らす。”と図書館機能

- ・ ビジョンは、未来型図書館ができることでまちや暮らしで実現させたいあり方です。図書館機能は、まちの「情報」・「つながり」・「とき」の3つの要素を具体化し、「編む。巡らす。」というビジョンの実現を支えます。

3つのコンセプトと図書館機能

- ・ コンセプトは、ビジョンの実現に向けて施設が担っていくことです。本計画で示す図書館機能も、コンセプトと紐づけて、具体的に検討したものです。
- ・ 3つのコンセプトは、互いに重なり合い、補い合いながら役割を発揮します。図書館機能もこうした関係の相互性を重視しながら具体化していきます。



出典：小松市 | 小松市未来型図書館基本構想

図書館機能「知の集積」の基本的な考え方

市民の「今日の営み／明日の営み」を支えるために、知識と情報を集め、共有し、次世代に継承する

- ・ 資料の収集にとどまらず、市民の日常生活や交流、学びや創造活動を支えるため、図書館の持つ知識や情報を多様な形で共有し、次世代に伝える役割を果たします。

資料の収集だけではなく、多様な機能を組み合わせ、融合や相乗効果を生み出す

- ・ 図書館の資料に加え、地域のコミュニティ活動や外部の資源、デジタル資源など多様な資源を組み合わせ、学びや創造の場を広げることで、新たな知識の発見や地域資源の活用を促進します。

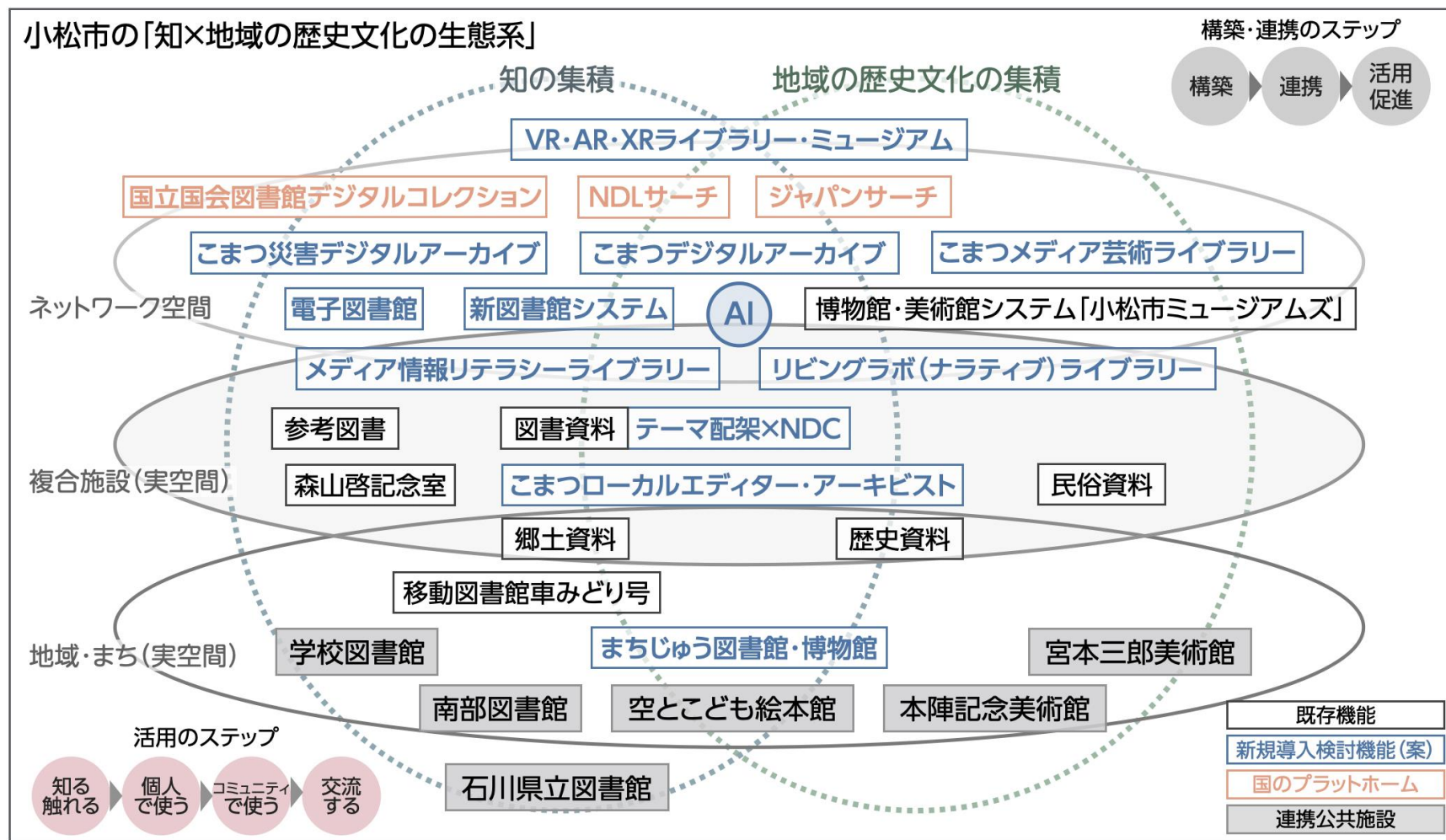
「知の集積」が中核となり、未来型図書館と地域社会が連携し、「知×地域の歴史文化の生態系」を形成する

- ・ 図書館機能を地域の知識と歴史文化がつながる生態系として位置付け、地域の歴史や文化を深める活動を推進し、市民とともに地域の魅力を再発見し発信する場とします。

「知の集積」を中核とした「知×地域の歴史文化の生態系」のイメージ

協議・検討の上図版をシンプルな形に更新

- すべての市民が「知の集積」にアクセスできるように、紙の資料だけではなく、複数の機能・サービスやメディアを活用して、「読書のカタチ」を選ぶことができる環境を整えます。



蔵書規模(他自治体との比較)

2023年版に更新・差替

表 3-12 蔵書数の比較(人口・面積が同規模の類似都市)

自治体名		人口 (人)	面積 (k m ²)	蔵書数 (冊)							1人当たり 冊数
					内訳①	蔵書数	内訳②	蔵書数	内訳②	蔵書数	
小松市	石川県	107,016	371.1	280,111	小松市立図書館	202,354	南部図書館	51,949	空とこども 絵本館	25,808	2.6
会津若松市	福島県	114,200	383.0	383,012	会津図書館	383,012	—	—	—	—	3.4
佐野市	栃木県	115,088	356.0	458,997	佐野市立図書館	276,913	田沼図書館	116,600	葛生図書館	65,484	4.0
桐生市	群馬県	104,647	274.5	346,000	桐生市立図書館	292,000	新里図書館	54,000	—	—	3.3
三条市	新潟県	93,403	432.0	327,552	三条市立図書館	266,358	図書館栄分館	35,158	図書館下田 分館	26,036	3.5
佐久市	長野県	98,198	423.5	440,481	中央図書館	200,264	サングリモ 中込図書館	27,807	他3館	212,410	4.5
尾道市	広島県	130,007	284.9	634,785	中央図書館	301,228	因島図書館	174,110	他3館	159,447	4.9
諫早市	長崎県	134,691	341.8	825,663	諫早図書館	339,872	西諫早図書館	71,153	他2館(+市内 図書室3室)	414,638	6.1
鹿屋市	鹿児島県	100,767	448.2	233,611	鹿屋市立図書館	195,456	輝北総合支所 図書室	11,079	他2館	27,076	2.3
他都市平均											4.0

出典:日本の図書館 統計と名簿2022／日本図書館協会

蔵書規模(他自治体との比較)

2023年版に更新・差替

表 3-13 蔵書数・図書館面積の比較(近年竣工した図書館)

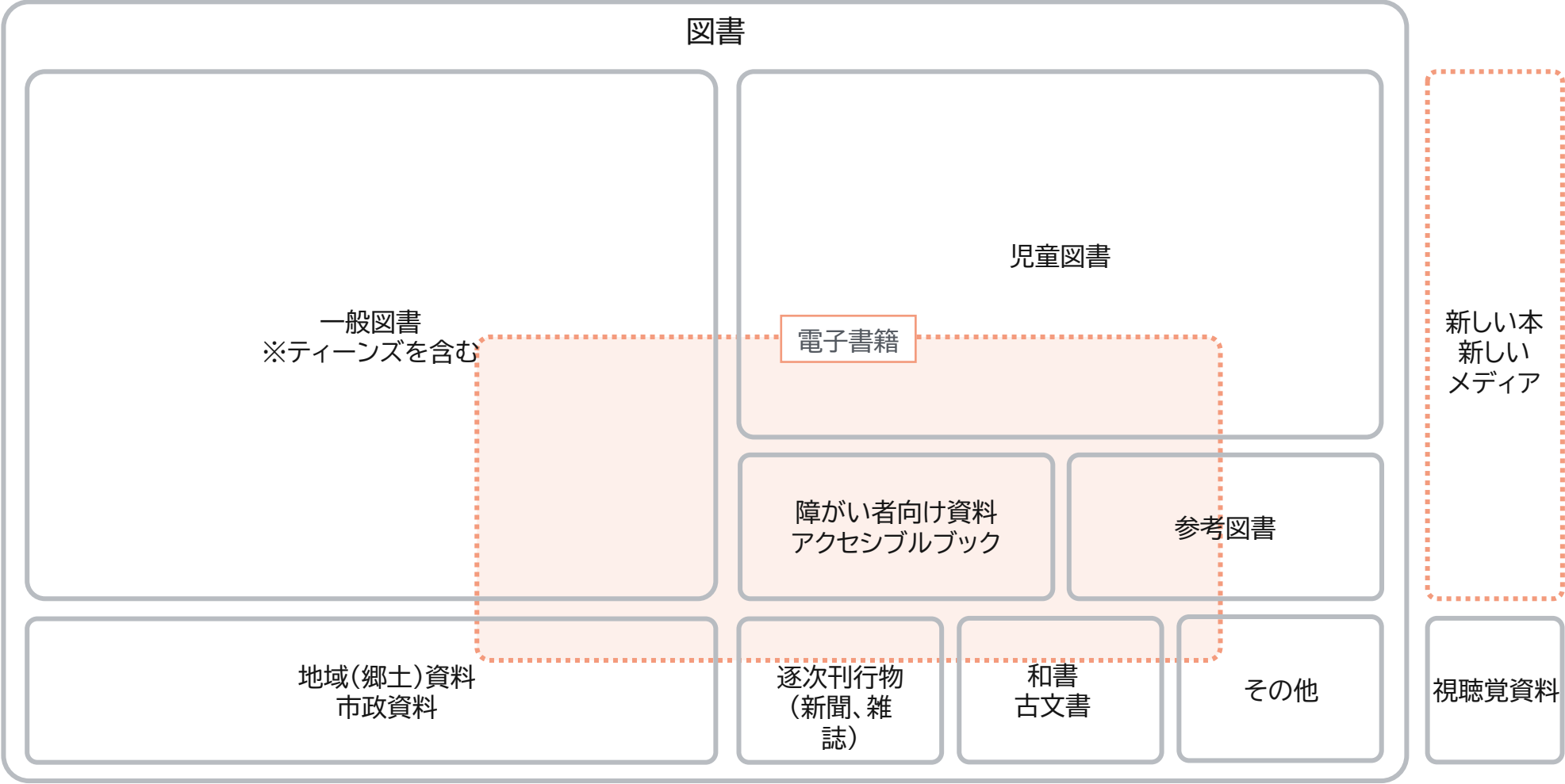
施設名	所在地	人口 (人)	竣工年	図書館 専有面積 (㎡)	蔵書数 (冊)	開架 図書 (冊)	閉架 図書 (冊)	㎡当たり 蔵書数 (冊/㎡)	㎡当たり 開架図書数 (冊/㎡)
小松市立図書館	石川県小松市	107,016	1981年	1,840	202,354	130,230	72,124	110.0	70.8
那須塩原市図書館 ゐるる	栃木県那須塩原市	117,143	2020年	4,644	154,167	84,668	69,499	33.2	18.2
ながはま文化福祉プラザ	滋賀県長浜市	116,840	2019年	2,116	294,602	185,135	109,467	139.2	87.5
アキシマエンス	東京都昭島市	113,552	2020年	4,111	419,128	215,166	203,962	102.0	52.3
駅前交流拠点施設ミライニ	山形県酒田市	100,172	2020年	3,476	237,464	—	—	68.3	—
図書館等複合施設「まちやま」	新潟県三条市	95,811	2022年	2,850	293,846	145,741	148,105	103.1	51.1
三原市立中央図書館	広島県三原市	92,009	2020年	3,116	242,666	120,956	121,710	77.9	38.8
守山市立図書館	滋賀県守山市	84,511	2018年	4,169	377,761	208,053	169,708	90.6	49.9
えみらん DENZAI 環境科学館・ 室蘭市図書館	北海道室蘭市	81,579	2021年	2,764	239,153	187,140	52,013	86.5	67.7
名取市図書館	宮城県名取市	79,252	2018年	2,995	232,042	167,318	64,724	77.5	55.9
天草市複合施設こらす	熊本県天草市	78,252	2019年	2,122	163,245	80,827	82,418	76.9	38.1
須賀川市民交流センターtette	福島県須賀川市	75,892	2018年	2,453	246,502	193,975	52,527	100.5	79.1
パフィオうわじま	愛媛県宇和島市	73,067	2019年	2,072	224,770	93,314	131,456	108.5	45.0
リブリオ行橋	福岡県行橋市	73,045	2020年	5,143	261,233	173,268	87,965	50.8	33.7
気仙沼市図書館	宮城県気仙沼市	61,445	2018年	2,758	242,756	104,630	138,126	88.0	37.9
学びの社のいちカレード	石川県野々市市	53,563	2017年	3,913	221,025	140,195	80,830	56.5	35.8
平均				3,247	256,691	155,739	102,325	84.0	49.4

※自治体人口規模順(人口5万人以上～12万人未満を抽出)

出典:日本の図書館 統計と名簿2022/日本図書館協会

蔵書構成のイメージ

- 蔵書構成比については、市民ニーズや社会情勢、小松らしさを勘案し、今後電子図書やアクセシブルブックが普及していくことを想定した割合とします。



蔵書規模

蔵書規模

- 未来型図書館の蔵書規模に関する考え方は、人口・面積が同規模の類似都市との比較を基に設定しています。現在、小松市内の図書館総蔵書数は約28万冊であり、これは人口一人当たり2.6冊に相当します。しかし、同規模の他都市における蔵書数の平均は人口一人当たり約4.0冊であり、この点で小松市の蔵書数は相対的に少ない状況にあります。
- 蔵書規模に関しては、「人の営みや情報の核となる拠点(こまつベース)」というコンセプトの実現を目指し、図書館の中核機能としての役割を強化します。類似都市の人口一人当たり蔵書数の平均に基づき、小松市全体の蔵書数を約42万冊と設定し、そのうち未来型図書館には約35万冊の蔵書を収蔵可能とする計画です。この蔵書規模は開館時の冊数ではなく、未来型図書館において収蔵可能な冊数を指します。蔵書の拡充については、石川県立図書館などとの相互貸借や、市民や企業からの寄贈により市民ニーズに対応していきます。
- 紙の蔵書は増え続ける一方で、書架スペースにはいずれ限界が訪れます。また、図書館機能の多様化による書架以外のスペースの増加や、蔵書拡充や蔵書新鮮度を保つためのコストの問題など、多岐にわたる課題があります。未来型図書館では、紙の媒体に加えてデジタル情報も重要な資料と考えますが、(a)それらも蔵書(35万冊に含む)と位置づけます or (b)それらについては蔵書とは別の資料(35万冊に含まない)と位置づけます。蔵書規模のあり方については、こうした社会の動きにも柔軟に対応していきます。「約35万冊の蔵書」は、こうした考え方をふまえての設定となります。

蔵書新鮮度

基本的な考え方

- 蔵書新鮮度は、図書館の蔵書がどれだけ新しい資料で構成されているかを測る指標です。その年に新たに収蔵された図書冊数を、年末時点での蔵書総数で割った割合で示されます。図書は、時間の経過とともに利用が減少する傾向があります。また、社会の変化などにより、内容が古くなるような図書もあり、常に新しい資料を取り入れることが重要です。
- 令和4年度の小松市立図書館の蔵書新鮮度は3.1%(令和5年度運営の概要／小松市立図書館)です。利用者に最新かつ有用な情報を提供し続けるために、蔵書新鮮度を維持していけるよう、計画的に予算を確保することが求められます。

開架図書と閉架図書の構成のイメージ

基本的な考え方

- 利用者が書架から資料を直接取り出すことができる書庫を「開架書庫」、通常は利用者が立ち入ることのできない書庫を「閉架書庫」といいます。現在の小松市立図書館の開架図書の割合は64%です。すべての図書館の資料は、できるだけ利用者が触れることができる状態にあることが望ましいとの考えに基づき、開架図書の割合は70%を目指します。
- 通常立ち入ることのできない閉架書庫の一部を、利用者が手にとれる公開書庫として設定するなど、工夫を図ります。なお、公開書庫は、司書やAI選書による参照サービスの強化を図り、利用者の情報検索や特定分野の専門家や研究者への資料分類・活用の手助けとなるよう開架書庫と併設し、透視性(スケルトン)のある閉架書庫とします。
- 上記のような工夫により、開架書庫と閉架書庫がつながり、「思いがけない本との出会い」をさらに広く提供します。これにより、利用者が図書館の資料にできるだけ多く触れる機会を増やすという目標を実現します。

透視性(スケルトン)のある閉架書庫の事例

みんなの森 ぎふメディアコスモス | 本の蔵



オーテピア高知図書館 | 塩見文庫



出典:オーテピア高知図書館 | 館内案内 | 塩見文庫案内
<https://otepia.kochi.jp/library/shiomi.html?id=shiomi01>
(最終閲覧日:2024年9月1日)

児童書の割合

基本的な考え方

- 現在の蔵書数と貸出冊数の割合を、全国の市区立図書館と比較すると、小松市立図書館において児童書へのニーズは特に高いといえます。また、リビングラボにおいても「子ども」のための機能や場所に対する期待の高さが伺えます。これらをふまえて、下の表の通り、児童書の冊数を114,800冊、割合を32.8%（蔵書数と貸出冊数の中間）と想定します。

	全国の市区立図書館蔵書数 「公共図書館集計(2023年)」より	全国の市区立図書館貸出冊数 「公共図書館集計(2023年)」より	小松市立図書館現在の蔵書数 「令和5年度運営の概要」より	小松市立図書館現在貸出冊数 「令和5年度運営の概要」より	未来型図書館の想定
児童書の冊数	-	-	51,503冊	88,844冊 ※R4年度以外も要確認	89,082冊 or 114,800冊
蔵書に占める 児童書の割合	28.2%	31.1%	25.5%	40%	25.5%※現在の割合 or 32.8% ※蔵書数と貸出冊数の中間

未来型図書館における蔵書計画

- これまでの整理をまとめた未来型図書館における蔵書計画を示します。

項目	内容	
蔵書数	350,000冊	
開架図書 閉架図書の割合	245,000冊【70%】	105,000冊【30%】
	※開架図書のうち、約20万冊は通常の開架、約4万5千冊は公開書庫とする	
一般書+その他(児童書以外の蔵書) 児童書の割合	260,918冊【74.5%】 or 260,918冊【67.2%】	89,082冊【25.5%】※現在の割合 or 114,800冊【32.8%】 ※蔵書数の割合(25.5%)と貸出冊数(40%)の割合の中間
	※貸出冊数の割合の高さや、リビングラボにおける市民の声をふまえて、児童書の割合を高めていく	

資料収集・選定方針

本計画をふまえ、小松市立図書館資料収集方針・資料選定基準を更新する必要有り

小松市立図書館資料収集方針(平成22年10月1日改正)

(趣 旨)

第1条 図書館法、小松市立図書館設置条例及び小松市立図書館規則に規定する事業を適正に処理するため、図書資料の収集に関し、基本方針を次のとおり定める。

(収集方針)

第2条 資料の収集に当たっては、次の各号に留意するものとする。

- (1) 地域の公共図書館としての役割を果たすため、一般教養、調査研究、実用及び娯楽の用に資する資料とする。
- (2) 資料の種類は、図書、逐次刊行物及び視聴覚資料(カセットブック、CD、DVD、ビデオテープ、紙芝居)とする。
- (3) 資料の範囲は各分野に渡り幅広く収集する。ただし、高度の専門書については専門機関に委ね、基本的な資料を優先的に収集する。
- (4) 蔵書の構成は利用状況を考慮するとともに、特定の分野に偏ることのないよう留意する。
- (5) 資料の選択は、思想、宗教及び政治において、自由、公平な立場から、あくまで中立であることを趣旨とする。
- (6) 利用頻度の高い資料及び保存上必要なものは、複本を置くことができる。
- (7) 学習参考書は収集しないものとする。
- (8) 児童用図書は、児童が読書の楽しみを発見し、読書習慣の形成と継続に役立つよう、様々な分野に渡り幅広く収集する。
- (9) 参考図書は、市民の日常の調査研究のため必要な辞書、辞典、年鑑、名鑑、目録、書誌、地図等幅広く収集する。

出典:小松市立図書館 | 令和5年度 運営の概要より抜粋

小松市立図書館資料選定基準(平成22年10月1日改正)

(目 的)

第1条 小松市立図書館資料収集方針に則り、資料の選定基準を次のとおり定める。

(選定基準)

第2条 資料の選定に当たっては、次のことに留意するものとする。

(1)一般図書

① 総記

- ア 最新情報を必要とする情報科学は、常に蔵書更新に努める。
- イ 叢書及び全集は、評価の定まったもの。

② 哲学・宗教

- ア 哲学、心理学、倫理学は、東洋思想及び西洋思想に渡り幅広くそろえる。
- イ 宗教は、特定の宗派に偏らず、公平な立場で選定する。
- ウ 宗教を理解するための歴史、聖典等は収集するが、伝道書、布教書は収集しない。
- エ 予言等の非科学的なものは避ける。

③ 歴史・地理

- ア 歴史・地理は、各時代、各地域に渡り系統立ててそろえる。
- イ 北陸地方、石川県及び小松市の歴史・地理は、特にきめ細やかそろえる。
- ウ 伝記は、資料や実施踏査等考証の裏付けのあるもので、フィクションでないもの。
- エ 旅行ガイドブック及びマップ等は、常に更新に努める。

④ 社会科学

- ア 政治、経済、社会、教育分野は、常に社会情勢に即応したもの。

⑤ 自然科学・医学

- ア 自然科学は、入門書から大学一般教養課程の内容のものまでを目安とし、常に更新に努める。
- イ 医学は、健康、予防に関するものを中心とする。

出典:小松市立図書館 | 令和5年度 運営の概要より抜粋

資料収集・選定方針

基本的な考え方

- ・ 未来型図書館は、図書館法に基づき、「知る自由」を社会的に保障する機関として、子どもから高齢者まですべての市民に資料や情報を提供し、特に「小松の未来」である子どもの心や感性、想像力を育む資料・情報環境の整備に努めます。
- ・ 未来型図書館における資料の種類は、「知の集積」として、図書のほか、逐次刊行物、地図、パンフレット、マイクロ資料、視聴覚資料、電子資料(インターネット情報源を含む)、モノ資料などを想定します。
- ・ 「読む」「知る」を拡張する「新しい本・新しいメディア」についても積極的に捉えていき、「知×地域の歴史文化の生態系」を支える多様な資料・情報環境を構成します。

資料収集・選定における6つの重点ポイント

- a. 市民の日常を支える資料: テーマ配架や多様なメディアを活かし、レファレンスなど時代や市民ニーズ(今は意識されていない潜在ニーズを含む)の変化に柔軟に対応した資料を収集します。
- b. デジタル資料の積極的な活用: 生涯学習に加え、子どもの調べ学習や自由研究など学校連携も見据えた電子書籍・デジタルアーカイブなどのデジタル資料を積極的に活用し、情報技術の進展に伴うメディアの拡張にも対応します。
- c. アクセシブルな資料の収集: 視覚・聴覚障がい者やディスレクシア(読字障がい)など、誰もが利用できる「見る本」「聞く本」「触る本」などのアクセシブルな資料を積極的に収集し、インクルーシブな資料・情報環境を実現します。
- d. 地域資料の共創と発信: 地域(郷土)資料の収集に加え、市民と共に地域の情報を収集・記録・編集し、発信していきます。現図書館に設置されている森山啓記念室などについては、地域の歴史文化の集積・編集の機能として配置し、融合機能として図書館と博物館をつなぐ役割を担っていきます。
- e. 市政情報の積極的な発信: 市政や社会情勢(時事)など、市民に発信すべき内容についても、テーマを複数設け、広報こまつや行政情報等と一体的な構成とするなどにより、市民に確実に届く工夫を行います。
- f. こまつ災害アーカイブの導入: 頻発化する災害に備え、新たに「こまつ災害アーカイブ(仮称)」を導入し、地域防止に役立つ資料の記録・収集、そして共有と活用の支援を行います。

未来型図書館のテーマ配架の考え方

ディテール重要。協議・検討の上更新

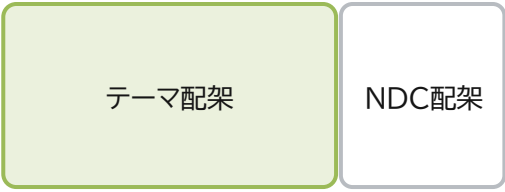
基本的な考え方

- 配架は、未来型図書館の核となる図書館機能を構成する上で重要であり、日々の暮らしに近いテーマや地域に根差したテーマなど、楽しみながら本を探したり、新たな本との偶発的な出会いが生まれるように、日常の言葉を用いたテーマやカテゴリーを加えた「テーマ配架」を導入します。
- 「テーマ配架」の導入によって、市民を含む共創によって進化し続ける書架づくりを実践します。
- 管理運営においては、NDCと「テーマ配架」を組み合わせた持続的なしくみを整備します。

テーマ配架で目指すこと

- 市民の日常として、資料がを見つけやすくなることで、新たな目的や次の資料を探す行為をより活発にします。
- 偶発的な出会いを含む楽しい行為としてのブラウジング(気の向くままに書架をながめたり、目的を持たずに本を手取る)が、生まれやすい環境を整えます。

テーマ配架導入のパターン

	全体をテーマ配架で配置	テーマ配架とNDC配架を分けて配置	NDC配架の中にテーマ配架を分散配置
配置イメージ			
特徴	- 全体で小松らしいつながる配架を実現 - 持続的な編集・更新が可能	- テーマ配架とNDC配架の複合 - 資料が分断するリスクが大きい	- テーマ配架とNDC配架の融合 - テーマとNDCの連携のコストが大きい
導入可否	○	△	△

テーマ配架の構成イメージ

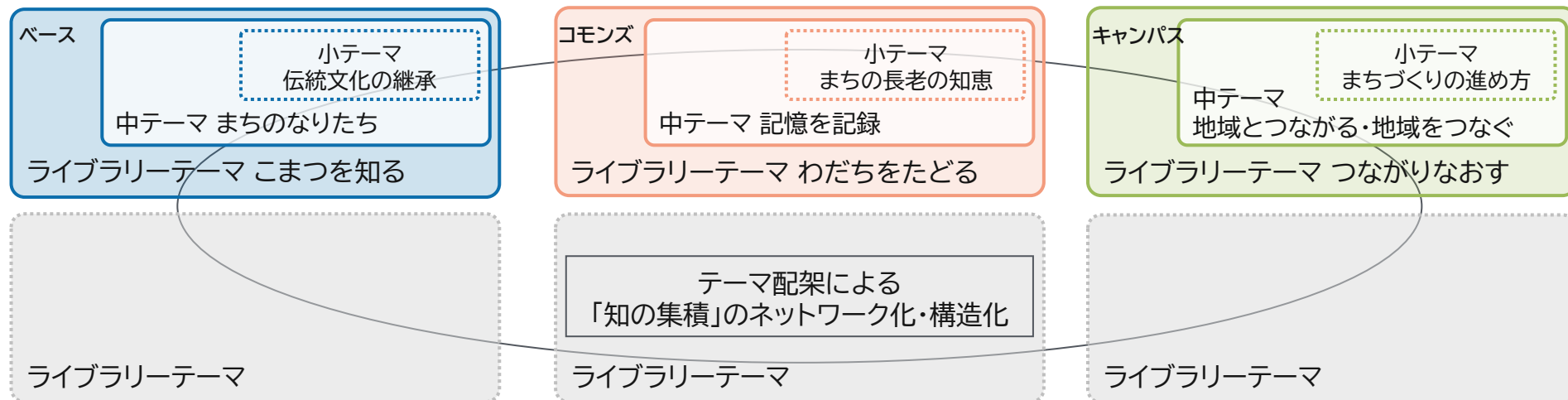
ディテール重要。協議・検討の上更新

「知の集積」を構造化する大テーマ

- 未来型図書館は、新しい発見や想像力を沸き立たせるテーマ性のある構成を行い、市民と共に創る小松ならではの特色ある「テーマ配架」とします。この配架テーマの導入によって、図書館機能「知の集積」が、未来型図書館の基盤機能となります。
- 「テーマ配架」の大テーマであるライブラリーテーマは、基本的に長い時間を想定した(10年程度)普遍的な本棚構成としますが、一部に市政や社会情勢を意識した「特集テーマ」を複数設け、変化を生み出していきます。

市民の行動・活動のきっかけをつくる中・小テーマ

- 行動・活動のきっかけを生み出す中テーマ、小テーマを、リビングラボの成果を基に、市民の日常とつながる言葉によって設定し、大テーマとともに構成します。
- 中・小テーマの構成は、社会や地域の変化をふまえて編集・更新できるようにすることで、変化を生み出していきます。
- テーマ構成の例(こまつリビングラボ令和6年度第1回開催報告「ライブラリーテーマ構成(案)」より)



テーマ配架による機能融合

図書館機能と博物館機能をつなぐ

- ・ テーマによる書架(例えば、こまつコモンズ＋文化と触れ合う)を、博物館の展示室に設置します。図書館と博物館をつなぎ、「すべての人々に開かれた、学びと楽しみと、そして未来を考えるため」の機会を、より幅広い形で提供します。

図書館機能と民間機能をつなぐ

- ・ テーマによる書架(例えば、こまつベース＋なりたい自分になる)を、カフェに設置します。この書架を活用し、カフェで「健やかでいるために」をテーマにしたイベントを開催します。図書館の資料と、市民の具体的な活動がつながります。

テーマ配架の参考事例

須賀川市民交流センター tette(福島県須賀川市)

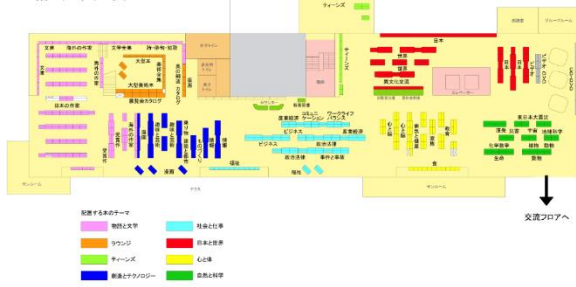
- 全体をテーマ配架で配置



メインライブラリー

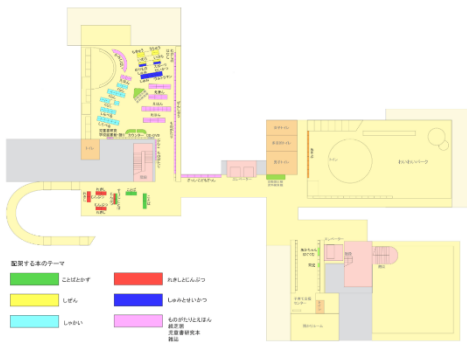
テーマごとに分かれて本が配置されています。最も多くの本があるフロアです。

須賀川市中央図書館配架図
3階メインライブラリー



こどもライブラリー

絵本や物語・図鑑など、赤ちゃんや子ども向けの本があるフロアです。



出典: 須賀川市民交流センター tette | 図書館 | フロアマップ
<https://s-tette.jp/library/005293.html> (最終閲覧日: 2024年8月29日)

テーマ配架の参考事例

須賀川市民交流センター tette(福島県須賀川市)

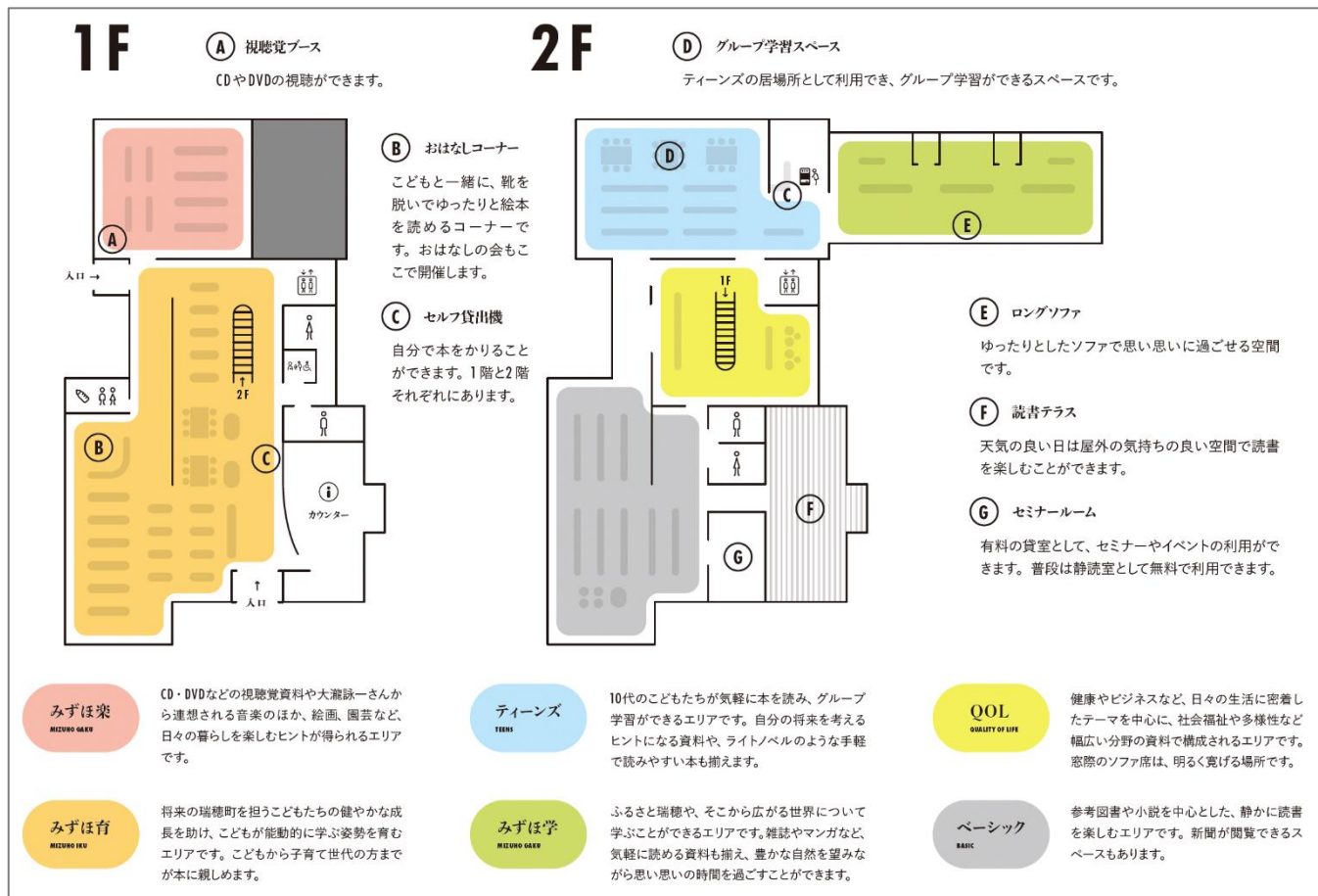
- ・ 全体をテーマ配架で配置(開架スペース全体)



テーマ配架の参考事例

瑞穂町図書館(東京都瑞穂町)

・ 全体をテーマ配架で配置



出典:瑞穂町図書館 | 施設案内(パンフレット)

テーマ配架の参考事例

瑞穂町図書館(東京都瑞穂町)

- ・ 全体をテーマ配架で配置

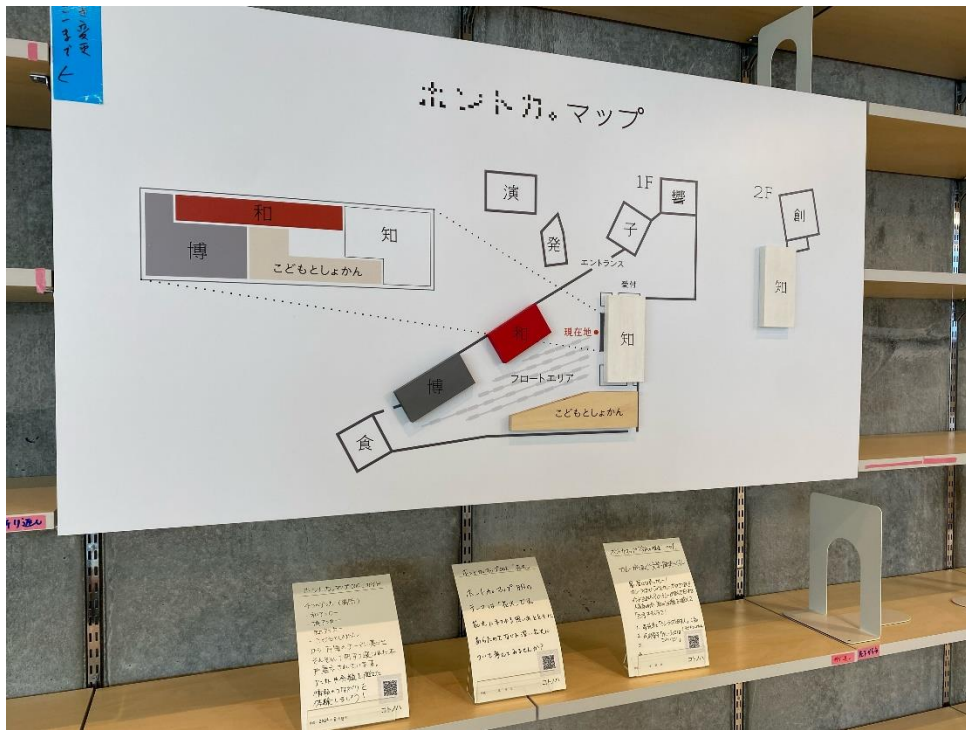


テーマ配架の参考事例

現在、開館に向けて配架最終作業中。作業完了後、写真更新

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。(新潟県小千谷市)

- ・ テーマ配架とNDCによる配架を分けて配置



3種の機能・サービス

こまつベース

こまつコモンズ

こまつキャンパス

基本的な
機能・サービス

資料・情報の収集・提供

資料・情報の活用支援(レファレンス・レフェラル)

学び・活動の支援

地域情報資源を活用した機能

ネットワーク・連携機能

図書館システムの再構成

特徴的な
機能・サービス

資料・情報の創造・発信支援

共に創る

博物館との連携機能

デジタル技術を活用した機能

共に創る

アウトリーチ機能

民間に期待する
機能・サービス

学び、創造、交流を支援、拡張する機能

共に創る

子育て・子育てを支援、拡張する機能

共に創る

カフェに関わる機能

小松市らしい地域性の高い機能

共に創る

資料・情報の収集・提供

知の集積

地域の歴史文化
の集積・編集

基本的な考え方

- 資料・情報の収集・提供においては、市民の「知る」権利を支え、「知る」という行動の出発点となることを大切にします。「小松市立図書館資料収集方針」に基づき(要更新)、基本資料の充実を図るとともに、これまでカバーできていなかったジャンルをカバーし、情報技術の進展にともないメディアの多様性を拡大します。これにより、初めての利用者でも、従来から利用している方でも、簡単にアクセスできる形で資料を提供します。

利活用のイメージ

- 基本となる図書資料の拡充によって、市民一人当たりの蔵書数を増やし、利用の機会も増加します。
- 大活字本、点字図書、DAISY(デジタル録音図書の国際標準規格)図書などのアクセシブルブック、電子書籍を導入し、これまで利用できなかった人びとを含め、誰もが読書ができる小松市になります。

資料・情報の活用支援(レファレンス機能を含む)

知の集積

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

基本的な考え方

- 資料・情報の活用支援(レファレンス・レフェラル機能を含む)は、市民が図書などの資料を単に読むだけでなく、日常生活の中で積極的に役立てることを目的としています。そのため、児童、ティーンズ、子育て世代、シニア、障がい者など、さまざまな対象に寄り添い、コミュニケーションを重視した支援を行います。さらに、テーマ配架を活用した環境と組み合わせ、資料が市民の行動や活動に活かされるサービスを提供します。

利活用のイメージ

- レファレンス・レフェラル機能の充実により、司書や学芸員が提供する情報検索のサポートを通じて、深い学びや発見を体験できます。また、地域内のリソースにもアクセスできるようになり、市民の多様なニーズに応じた情報が得られます。
- 国立国会図書館デジタルコレクション(図書館向け／個人向け)など外部サービスの活用支援により、これまでアクセスできなかった情報にアクセスできるようになります。

学び・活動の支援

知の集積

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

活動支援

基本的な考え方

- ・ 学び・活動の支援は、市民の日常における学びや活動を支えることを目的としています。そのため、図書館の資料や情報を効果的に活用できるように配置されたテーマライブラリーや、多様なプログラムを通じて、学びや活動のきっかけとなる多様な出会いの機会を提供します。これにより、すべての人の行動や活動を幅広く支援します。

利活用のイメージ

- ・ 地元の歴史や文化、産業に関するワークショップや講座に参加し、小松の伝統や技術を学びながら、地域社会への理解を深めることができます。
- ・ 図書館が提供する最新のデジタル技術や交流スペースを活用して、市民同士がアイデアを共有し、地域の課題解決に向けた創造的な活動を展開する場となります。

地域情報資源を活用した機能

知の集積

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

知・文化の共有

活動支援

基本的な考え方

- ・ 地域情報資源(現図書館の「森山啓記念室」や絵本館の「松居直コレクション」などの資料を含む)を活用した機能の導入は、小松市の魅力を発見し再発見することで、市民が小松市の過去を学び、未来を創造するための資料と環境を整備することを目的とします。そのため、小松市の行政、歴史、自然、地理、風土、生活、文化に関連する資料を、図書や雑誌、視聴覚資料だけでなく、パンフレット、ポスター、zine、写真、映像、音声、人など多様な形態で幅広く収集します。そして、図書館と博物館の機能をシームレスに連携させ、「地域の歴史文化の集積・編集」機能を強化します。結果として、市民が共創を通じて小松市の魅力を世界に向けて発信できるようになります。

利活用のイメージ

- ・ 「松居直コレクション」や絵本に関する地域情報資源やネットワークを活用し、「こまつ絵本フェスティバル(仮称)」を開催します。小松の文化の力を再発見するとともに、絵本のまち・小松市として世界に向けて情報発信を行います。

ネットワーク・連携機能

知の集積

地域の歴史文化
の集積・編集

施設・地域連携

体験の共有・交流

活動支援

基本的な考え方

- ・ ネットワーク機能(学校図書館支援、他施設連携を含む)の導入は、学校や周辺施設との連携を通じて、地域学習の実践ネットワークを構築することを目的とします。そのため、こまつ市民読書活動推進計画2020(小松市・小松市教育委員会)に基づく読書活動支援に加え、地域全体で世代を超えたメディア情報リテラシーを学ぶ機会を提供します。結果として、誰もが、いつでも、どこからでも、何度でも学ぶことができる環境の基盤を整えます。

利活用のイメージ

- ・ 学校や周辺施設と連携したネットワーク機能により、市民が地域全体の学びの場を自由に行き来し、共有された情報や資料を活用して多様な学びを体験できます。
- ・ 子どもから高齢者まで、幅広い世代が参加できるメディア情報リテラシー講座やワークショップが提供され、市民の情報活用能力が強化されます。

図書館システムの再構成

知の集積

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

施設・地域連携

活動支援

基本的な考え方

- ・ 図書館システムの再構成は、「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を」というデジタル庁のビジョンを未来型図書館でも実現し、未来型図書館が地域の情報環境をリードする役割を担っていくことを目的とします。そのため、小松市のスマートシティや地域デジタル化施策と連携し、既存のシステムの考え方を大幅に見直し、カスタマイズや更新が可能な持続可能なシステムの整備・運営方法を検討します。これにより、児童、ティーンズ、子育て世代、シニア、障がい者など、すべての人が日常的に利用しやすく、フレンドリーなシステムが整備されます。

利活用のイメージ

- ・ 小松市のスマートシティ施策と連携した図書館システムにより、図書館を地域の情報ハブとして活用できる機会が増え、地域住民が最新のデジタル情報やサービスに接続しやすくなります。
- ・ 更新やカスタマイズが可能な柔軟なシステムにより、システムが継続的に改善され変化やニーズに対応し続けます。

資料・情報の創造・発信支援

知の集積

地域の歴史文化
の集積・編集

創造

発信・表現

共に創る

基本的な考え方

- 資料・情報の創造・発信支援の導入は、資料を借りて読む、情報を受け取るといった一方向の機能・サービスにとどまらず、市民が自ら資料や情報を創造し、発信できるよう支援することを目的とします。そのため、調査、取材、執筆、編集、発信に関するプログラムを提供し、共同で創作できるスペースや機材を整備します。結果として、すべての市民が創作者や発信者となり、地域のネットワークや最新の情報技術を活用して、小松市の情報を世界へ発信できるようになります。

利活用のイメージ

- 調査や取材、執筆、編集のスキルを学ぶプログラムを通じて、市民が自分のアイデアや視点を情報として発信する力を身につけることができます。
- 情報創造の活動を通じて、市民同士がつながり、共通の興味や目標を持つ新しいコミュニティが形成され、地域のネットワークが強化されます。

博物館との連携機能

「個」の活動

地域の歴史文化
の集積・編集

施設・地域連携

体験の共有・交流

活動支援

基本的な考え方

- 博物館との連携機能の導入は、「すべての人々に開かれた、学びと楽しみ、そして未来を考えるための機会」を提供することを目的とします。そのため、展示や学習プログラムの共同実施、資料のデジタル化とアーカイブの共有、レファレンス・レフェラル機能の統合、さらには学校や公立小松大学との連携など多様なプログラムを企画・実施します。これにより、地域社会における学習と文化の発展が促進され、市民はより豊かな学びと体験を得ることができるようになります。

利活用のイメージ

- 図書館と博物館、そして学校や公立小松大学と連携したプログラムにより、市民が地域の専門家や教育機関とつながりながら、より深い学びを体験できるようになります。
- レファレンス・レフェラル機能が統合されることで、図書館と博物館双方の情報資源を活用し、より充実した調査や情報検索のサポートを受けられるようになります。

デジタル技術を活用した機能

施設・地域連携

体験の共有・交流

創造

発信・表現

共に創る

基本的な考え方

- デジタル技術を活用した機能の導入は、生成AIをはじめとする新しい技術を市民が身近に感じられる体験を提供することを目的とします。そのため、デジタル技術を楽しみながら学べる機会を提供し、デジタル(情報空間)とアナログ(実空間)の体験を一体的にデザインし、整備します。これにより、多様で新しい形の社会参加を実現するとともに、未来型図書館がデジタル技術においても地域社会をリードし、市民の社会参加を支える役割を果たします。

利活用のイメージ

- 国立国会図書館デジタルコレクションをはじめとするオンライン情報資源に、市民がいつでもどこでも簡単にアクセスできるよう、図書館での支援プログラムや環境が整備されます。
- リビングラボとの連携により、デジタル技術を活用したコミュニティ活動やオンラインフォーラムを実施します。市民が多様なテーマで議論し、アイデアを共有しながら、地域の未来を共に創り上げることができます。

アウトリーチ機能

知の集積

施設・地域連携

体験の共有・交流

活動支援

基本的な考え方

- アウトリーチ機能の導入は、さまざまな理由で図書館を訪れることができない方々にも、未来型図書館の機能・サービスを提供することを目的とします。そのため、市民参加による共創型の出張図書館や「まちじゅう図書館」の企画・運営を進め、これにより、未来型図書館は地域社会全体に学びや文化活動の機会を提供し、多様なニーズに応えるサービスを展開します。

利活用のイメージ

- 出張図書館の導入により、図書館を訪れることが難しい市民が、自宅近くや集会所などで未来型図書館の機能・サービスを受けられるようになります。
- 図書館が「来館する場所」だけでなく、「出向く場所」にもなることで、市民が図書館の新しい役割や価値を感じ、より親しみを持つようになります。

学び、創造、交流を支援、拡張する機能

体験の共有・交流

創造

発信・表現

活動支援

共に創る

基本的な考え方

- ・ 学び、創造、交流を支援・拡張する機能の導入は、図書館や博物館だけでは十分に実現できない民間の力を活かして、学び、創造、交流の機能をより多様にすることを目的とします。そのため、市民の新しい働き方を生み出す場や、ものづくりを体験したり、まちづくりに参加できる場などの環境を導入します。これにより、「未来型図書館」は市民にとって魅力的な学びと創造、交流の場となり、共創を促進し、地域全体でのまちづくりに寄与することが可能となります。

利活用のイメージ

- ・ コーニングスペースで、異なる年齢層や専門分野の市民が集まり、共同で学び合う場を提供し、新たな知識の共有やスキルの向上を促進します。
- ・ メイカースペースにて、デジタル機器やアナログツールを使用して、市民がものづくりの楽しさを体験し、自分のアイデアを形にできる創造的な場を提供します。

子育て・子育てを支援、拡張する機能

くつろぐ・居場所

施設・地域連携

体験の共有・交流

子育て支援

共に創る

基本的な考え方

- ・ 子育て・子育てを支援・拡張する機能の導入は、子どもと家族が安心して未来型図書館で過ごせる環境を提供することを目的とします。そのため、子どもと家族向けや親子で楽しむプログラムや、子どもの一次預かりサービスなどの機能を導入します。これにより、「未来型図書館」は地域の子育て支援をさらに豊かにし、家族が安心してくつろぎながら学び、他の家族と自然に交流できる新たな場となります。

利活用のイメージ

- ・ 「くつろぎのパークラウンジ」の導入により、家族全員がリラックスして過ごせる空間が提供され、子どもから大人まで、安心して図書館を訪れることができます。
- ・ 「キッズステーション」による子どもの一時預かりサービスが提供され、親が安心して図書館の利用や学び、コミュニケーション、くつろぎに集中できる環境が整います。

「食として、場として、文化として」のカフェに関わる機能

くつろぐ・居場所

知・文化の共有

体験の共有・交流

基本的な考え方

- ・「食として、場として、文化として」のカフェに関わる機能の導入は、家でも職場でも学校でもない、それぞれがくつろげる「居場所」を提供することを目的とします。そのため、地産地消を活かしたり、多彩な交流イベントを提供したり、環境を学ぶ飲食プラスアルファのカフェや、手話が共通言語とするインクルーシブなカフェなど、未来型図書館ならではの、気楽に行けて、予期せぬ何かに出会え、あたたかみのある場を創造します。これにより、「未来型図書館」は、訪問者に「くつろぎ」と「居場所」を提供するだけでなく、地域の食文化を発信し、食と健康に関する学びの場としても機能します。

利活用のイメージ

- ・地産地消のヘルシーカフェで、小松の新鮮な食材を使った料理を楽しみ、地域の食文化に触れることができます。
- ・コミュニティカフェやインクルーシブな「サイニングストア」(手話が共通言語のカフェ)を通じて、異なるバックグラウンドを持つ市民が自然に交流できる場が提供されます。

小松市らしい地域性の高い機能

地域の歴史文化
の集積・編集

施設・地域連携

体験の共有・交流

活動支援

共に創る

基本的な考え方

- ・小松市らしい地域性の高い機能の導入は、小松の歴史、文化、産業を基盤に具体的なものづくりを促進し、これをより魅力的に世界へ発信することを目的とします。そのため、小松の独自の文化や技術を活かし、地域の魅力を具現化するプロジェクトを展開しながら、小松文化を基盤としたシビックエコノミー(市民主体の循環型経済活動)を創出していきます。これにより、地域の活力が向上し、持続可能な経済活動が生まれ、まちづくりにもつながります。

利活用のイメージ

- ・「歌舞伎×ものづくり×ナラティブ」といったプロジェクトを通じて、市民が小松の伝統文化や技術に触れ、その魅力を深く理解する機会が増えます。
- ・市民が参加するシビックエコノミー活動を通じて、地域内での資源循環を促進し、小松の産業を支える活動に貢献することができます。

図書館の規模について

- ・ 近年開館した図書館事例をもとにし、図書館機能面積は約4,400㎡とします。各諸室・スペースについては「3. 複合施設の建築計画」に内訳を表記しています。
- ・ 来館者数の増加を見据え施設全体の中で閲覧席の充実を図り、約360席(1人～複数人掛け)を想定します。

書架、閲覧スペース

- ・ 開架書架は、高さや配置を工夫し、施設全体が開放的な空間となるよう配慮し、ベビーカーや車椅子など不自由なく移動できるユニバーサルデザインやバリアフリーに戻った施設整備とします。
- ・ 閲覧スペースは、ソファなどくつろげる席を書架と一体的に配置し、利用者が長時間滞在したくなる空間を目指します。
- ・ 天気の良い日には、縁側や屋外などに落ちついたテラス席を設け、ワゴンや移動書架などイベント等に応じて企画しやすい空間を創出します。

博物館との融合スペース

- ・ レファレンス・レフェラル機能に加えて、図書館と博物館の展示や資料を一体化した空間を設け、来館者が自然な流れで両機能のコンテンツを楽しめるようにします。
- ・ 図書館のテーマ配架と博物館の資料や展示物をテーマに沿って組み合わせたエリアを作り、来館者が同じテーマで多角的に学びや発見を得られる環境を整えます。

共用スペース

- ・ エントランスホールや市民ギャラリー、交流スペースなどにも、本と連携した企画や、テーマ配架の一部など、施設全体が一体感を感じるレイアウト配置や空間を演出します。書架は融合をつなぐインターフェイスとして分散配置します。
- ・ エントランスホールは、未来型図書館の情報の入口として、施設の基本情報に誰もがアクセスできる場所となります。